

患者を支える人々

認定開始10余年、全国に128人  
チーム医療の調整役

たずみけいこ  
がん看護専門看護師 田墨恵子さん

大阪大病院オンコロジーセンター看護部長の田墨恵子さん(49)には、もう一つの肩書がある。今年で6年目の「がん看護専門看護師」。患者が通院しながら抗がん剤治療を受ける同病院の外来化学療法室で、がん看護のスペシャリストとして働く。

同室では、5人の看護師が1日30〜40人の患者を安全で効果的に治療するためのケアを受け持つ。田墨さんは、患者が希望する治療を実現させるため、医師をはじめとした他の職種を担当者と話し合い、家族との橋渡しもする。がん医療についての深い知識、患者の体の状態に

応じた適切な判断力、院内でのコミュニケーション力で、チーム医療の調整役になる。

患者の悩みや不安は多様だ。「医師から抗がん剤治療を勧められたが、受けたくない」「仕事や生活と治療はどう両立できるか」「どうしてがんになってしまったのか」。田墨さんは患者の声に耳を傾け、心の整理を手助けしたり、解決法を一緒に考えたりもする。

昨年4月に乳がんが再発した大阪府茨木市の女性(42)は「不安なことは何でも田墨さんに相談する。忙しい中でも、ゆっくりしゃべってくれて、心が休ま

る」と言う。

専門看護師は、看護師の実務を5年以上経験し、看護系大学院で特定の分野の知識を深め、技術を高めた看護師の資格だ。日本看護協会が98年から認定している。がん看護のほか、「慢性疾患看護」「老人看護」など10分野がある。現在、がん看護専門看護師は田墨さんを含めて全国に128人いる。

田墨さんは、つらい抗がん剤治療を患者が懸命に受ける姿に胸を打たれ、がん看護専門看護師を志した。患者が最期まで笑顔で過ごすことができるかどうかは、「私たちのちよっとしたがんばりしたい」。田墨さんは今日も患者に寄り添う。(医療ジャーナリスト・福原麻希)



抗がん剤治療のため患者の腕の血管に針を入れる田墨恵子さん  
—大阪大病院

65年生まれ。88年から大阪大病院に勤務。02年、兵庫県立看護大学(現兵庫県立大看護学研究科)大学院修士課程修了。03年にがん看護専門看護師の認定を受け、04年から現職。

病院では医師以外にも様々な専門職の人々が働いています。看護師など歴史が長い職種だけでなく、臨床試験コーディネーターのように比較的新しい職種もあります。患者の人生や価値観を重視するチーム医療が広がり、「コメディカル」と呼ばれるそうした人たちの役割が改めて注目されています。患者を支える人々の素顔を紹介します。